

花粉症/アレルギー性鼻炎で 受診された患者さまへ

お名前 | () 才

日付 | 年 月 日



症状

1 どのような症状でお悩みですか？(複数回答可)

鼻の症状① くしゃみ・鼻水 鼻の症状② 鼻づまり

眼の症状 かゆみ 痛み 涙

その他の症状 咳 のどの違和感 だるさ 肌のかゆみ

2 上記の症状はどの程度つらいですか？

症状はまだ出ていない(予防) それほどつらくないがこれ以上悪化させたくない

日常生活を送られてはいるが、つらい 日常生活に支障が出るほどつらい

3 上記の症状がつらい時間帯はいつですか？(複数回答可)

起床時 午前 午後 夜間～就寝中



アレルギー

1 自覚しているアレルギーはありますか？(当てはまるものすべてに○をつけてください)

ない スギ・ヒノキ スギ・ヒノキ以外の植物 ダニ・ハウスダスト

動物(イヌ・ネコ・鳥類) その他()

2 花粉症/アレルギー性鼻炎以外でかかっている病気はありますか？

ない 喘息 アトピー性皮膚炎 その他()



ライフ

1 自動車の運転など、危険を伴う機械の操作をする機会はどの程度ありますか？

ない 月に数回程度 週に数回程度 ほぼ毎日

2 該当する項目はありますか？(複数回答可)

喫煙機会がある 飲酒機会がある コンタクトレンズを使用している

妊娠中(可能性ありを含む) 授乳中

1 現在、服用している花粉症/アレルギー性鼻炎のお薬はありますか？(分かる範囲で薬剤名を記入してください)

ない ある()

└─▶ 同じお薬の継続を希望しますか？

継続したい 変更したい 他のお薬についても説明を聞いてみたい

2 最もお薬の飲み忘れが少ないのはいつですか？

起床時 食前・食後 食間(食事と食事の間・空腹時) 就寝前

3 希望するお薬のタイプはありますか？(複数回答可)

飲み薬 点眼薬 点鼻薬 貼付薬 注射薬

4 お薬を処方される際、避けたい項目はありますか？(複数回答可)

眠くなる 費用が高い 種類が多い 服用回数が多い その他()

5 その他、何かご要望や心配なことはありますか？

ない ある()



治療

なぜナニ!? 花粉症/アレルギー性鼻炎

監修：東北医科薬科大学 耳鼻咽喉科 教授 太田 伸男 先生



* 鼻アレルギー診療ガイドライン2020年版
** 第一生命経済研究所 経済分析レポート(2019年3月)

約5割



アレルギー性鼻炎は国民病!?

乳幼児から高齢者にいたるまで、実に5割にも上る国民がアレルギー性鼻炎に苦しんでいるのだとか(花粉症は約4割)*。特に花粉症による日本の経済損失は年間5000億円を超えとも言われ、国にとっては由々しき事態**。そしてもちろん、つらい症状は個人にとってもきわめて由々しき事態。

一刻も早く治したい!!!
ほんと、つらいんですね…



予防できるの!?

症状や重症度にあわせてお薬を使用することが大切ですが、その他にも

- 1 可能な限り、原因を避けること(除去・回避)
 - 2 花粉症であれば、症状が出る前から治療を始めること(初期療法)
 - 3 免疫療法を受けること
- などにより、症状を軽くすることが可能です。

除去・回避

- マスク・メガネを着用する
- 帰宅時には玄関前で衣類をはたいて花粉を落とす
- 部屋をこまめに掃除する
- 空気清浄機を使用する

初期療法

花粉は飛ぶ季節が決まっていますので、症状が出る前から治療薬を服用し始めることで、症状を軽くできる可能性があります。

免疫療法

原因となる抗原(花粉の成分など)を少しずつ体に入れて、アレルギー反応を弱める治療法です。長期間の治療継続が必要です。詳しくは、医師に相談してください。

他の病気とも関係がある!?

花粉やハウスダストなどへのアレルギー反応によって鼻や目の症状が起こるアレルギー性鼻炎ですが、アレルギーが原因で起こる他の病気を悪化させることがあるんです。

たとえば、喘息。

アレルギー性鼻炎患者の2-3割に喘息が合併しているという調査結果がありますが、アレルギー性鼻炎を治療することで、喘息による受診や入院を減らすことができるとの報告があります*。



原因はさまざま!?

最も有名なのは、「スギの花粉」。でも実は、年間を通して色んな植物の花粉や要素が原因になるんです。

- 春** スギ・ヒノキ・シラカバ
- 秋** ブタクサ・ヨモギ・カナムグラ
- 夏** イネ科
- 年間** ダニ・カビ・ハウスダスト・動物のフケ



どんな治療薬があるの!??

お薬による治療で重要なのは、薬効だけではなく、それは「毎日正しく服用できるか」。

どんなに良いお薬でも、きちんと服用しないと、期待した効果は得られにくくなります。毎日「正しく」服用するためには、個人のライフスタイルに合っていることが大事。たとえば、車を運転するときや仕事や勉強に集中したいときは、眠くなるお薬はできるだけ飲まないでしようし、飲み忘れにくいタイミングや好みの服用回数も人によって違うでしょう。自分にぴったりの治療法を見つけるために、積極的に医師と相談しましょう。(症状や重症度によって推奨される治療は変わります。)

期待される役割	分類名	使用が推奨される症状	全身に作用		局所に作用	
			経口薬	注射薬	点鼻薬	点眼薬
アレルギーを起こす成分の産生を阻害する薬	Th2サイトカイン阻害薬	軽症での使用が推奨されています	○			
アレルギーを起こす成分の分泌を抑制する薬	ケミカルメディエーター遊離抑制薬		○		○	○
アレルギーを起こす成分の働きを抑制する薬	第2世代抗ヒスタミン薬	軽症から重症症まで、主にくしゃみ・鼻水の治療に使用されます	○			○
	抗ロイコトリエン薬	軽症から重症症まで、特に鼻づまりの治療に使用されます	○			
	抗PGD ₂ ・TXA ₂ 薬		○			
	抗IgE抗体製剤	既存の治療で効果が不十分な重症例に使用されます		○		
鼻の血管を収縮させてむくみをしずめる薬	血管収縮薬	中等症以上の鼻づまりの治療に使用されます	○		○	
抗アレルギー・抗炎症作用を持つ薬	ステロイド薬	点鼻薬は軽症から重症症まで、鼻のすべての症状の治療に使用されます 経口薬は点鼻薬が奏功しない重症例でのみ使用されます	○		○	○